

## H i b (インフルエンザ菌 b 型) 感染症予防接種

～予防接種に欠かせない情報です。接種の前に必ずお読みください～

予診票は  
2枚複写です

### 1 Hib (インフルエンザ菌 b 型) と乳幼児の細菌性髄膜炎

Hib (インフルエンザ菌 b 型) は、乳幼児の化膿性髄膜炎、敗血症並びに喉頭蓋炎などの重い感染症の原因となっています。乳幼児の髄膜炎を起こす細菌はいくつかありますが、その6～7割程度をHib が占めていると言われています。日本では年間400人の乳幼児が発症していて、その過半数が生後4か月から1歳までにかかっています。感染初期には風邪などと区別がつかず、早期に診断するのはとても難しい病気です。また、近年には抗生物質の効かない菌 (耐性菌) が増えており、治療が困難になってきています。

(※注) ヒブは冬に流行する「インフルエンザウイルス」とは全く別のものです。

### 2 使用ワクチン【乾燥ヘモフィルスb型ワクチン】について

- ①ヒブの莢膜成分に特殊蛋白を結合させた蛋白結合型ワクチンであり、日本においては2008年12月に販売が開始された輸入ワクチンです。
- ②不活化ワクチンのため、標準的には生後2月から7月に至るまでの間に開始し、間隔をあけて計4回の接種 (皮下注射) が必要です。  
接種開始月齢が生後7月以降の場合は、「3 接種対象年齢と接種スケジュール」を参照してください。

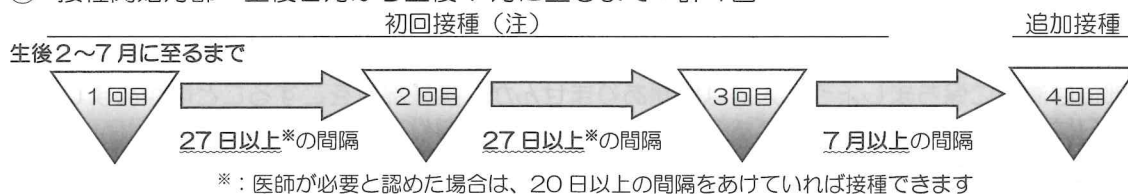
### 3 接種対象年齢と接種スケジュール

**【定期予防接種の対象年齢】** 生後2月から生後60月に至るまで (5歳の誕生日の前日まで)

#### 標準的な接種スケジュール

※DPT-IPV、肺炎球菌ワクチンと接種時期が重なるので、接種医とよく相談のうえスケジュールをたてましょう。

- ① 接種開始月齢 生後2月から生後7月に至るまで：計4回



(注) 初回2回目及び3回目の接種は生後12月に至るまでに接種し、それを超えた場合は行わないこと。この場合、追加接種は、初回接種に係る最後の注射終了後27日以上の間隔をおいて1回行うこと。

#### 標準的な接種スケジュールで接種できなかった場合

※初回接種時の年齢により、接種間隔や回数異なります

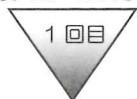
- ② 接種開始月齢 生後7月に至った日の翌日から生後12月に至るまで：計3回



(注) 初回2回目の接種は生後12月に至るまでに接種し、それを超えた場合は行わないこと。この場合、追加接種は、初回接種に係る最後の注射終了後27日以上の間隔をおいて1回行うこと。

- ③ 接種開始年齢 生後12月に至った日の翌日から生後60月に至るまで：1回

生後12～60月に至るまで



#### ※対象年齢(月齢)の考え方

生後2月：生後2か月後の誕生日の前日  
 生後〇月に至るまで：生後〇か月後の誕生日の前日  
 生後〇月に至った日の翌日：生後〇か月後の誕生日

裏面もお読みください。

#### 4 ワクチンの副反応

国内の臨床試験でみられた副反応は、接種部位の症状（発赤、腫脹、硬結、疼痛）、不機嫌、不眠、食欲不振、発熱などです。これらのほとんどは接種後2日までに発現し、その後3日以内には処置を必要としなくなりました。重い副反応としては、非常にまれですが、ショック、アナフィラキシー症状、けいれん、血小板減少性紫斑病が報告されています。このような症状が現れた場合は、すぐに接種医に相談してください。

#### 5 接種を受けることができない方

- ①明らかに発熱している方（通常は37.5℃を超える場合）
- ②重い急性疾患にかかっている方
- ③このワクチンの成分または破傷風トキソイドによって、アナフィラキシー（通常接種後30分以内に出現する、呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと）をおこしたことのある方
- ④その他、かかりつけの医師に予防接種を受けない方がよいといわれた方

#### 6 接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない方

- ①心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方
- ②過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状のみられた方
- ③過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことのある方
- ④過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方、もしくは近親者に先天性免疫不全症の人がいる方
- ⑤このワクチンの成分または破傷風トキソイドに対してアレルギーをおこすおそれのある方

#### 7 ワクチン接種後の注意

- ①接種後30分間はショックやアナフィラキシーがおこることがごく稀にありますので、医師とすぐに連絡がとれるようにしておきましょう。
- ②接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ③接種後1週間は体調に注意しましょう。また、接種後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。
- ④接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は問題ありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- ⑤接種当日は激しい運動は避けてください。その他はいつもどおりの生活で結構です。

#### 8 他のワクチンとの接種間隔

- ①先に生ワクチンを接種した場合は27日間以上、不活化ワクチンを接種した場合は6日間以上の間隔をあける必要があります。
- ②このワクチン接種後、違う種類のワクチンを接種する場合には、6日間以上の間隔をあける必要があります。
- ③他のワクチンとの同時接種は医師の判断となります。

#### 9 予防接種による健康被害救済について

ワクチン接種により健康被害が発生した場合、厚生労働大臣が予防接種法に基づく定期予防接種によるものと認定したときは、予防接種法に基づく健康被害救済の給付の対象となります。